

## 対象コース：芸術学科（及び全学部・各コース・院生）対象

学習会「<sup>しよくうり</sup>続瓜の会」入会のススメ；現課題 古記録『<sup>かんもんにつき</sup>看聞日記』概要

『<sup>かんもんにつき</sup>看聞日記』の記主・<sup>ふしみみやさだふさ</sup>伏見宮貞成親王は、現天皇の直系のご先祖にあたる方です。そのため当日記は『<sup>かんもんにつき</sup>看聞御記』とも称します。

室町期・三代将軍足利義満の下、第100代・北朝系後小松天皇の折、南北朝が統一されました。

この後の頃より貞成親王の物語は始まります。貞成王の父<sup>よしひと</sup>栄仁親王は、<sup>じみょういんとう</sup>持明院統北朝直系の<sup>すこう</sup>崇光天皇嫡子で有りながら、都から離れた伏見の地に天皇の道を閉ざされ悶々と過ごしました。それは足利政権発足当時、<sup>よしひと</sup>持明院統と<sup>じみょういんとう</sup>大覚寺統及び<sup>すこう</sup>将軍家の政争の中、貞成王祖父<sup>よしひと</sup>崇光院一統が朝廷から弾き出されて、<sup>おぐらいけ</sup>大池（巨椋池）を望む伏見指月社に院御所を設け隠棲したことに始まります。

風光明媚なこの地は、かつて<sup>たちばなとしつな</sup>平等院を建立した藤原頼道の子 橘 俊綱が伏見長者と称され大別邸を営み、後に豊臣秀吉伏見時代前期の指月城が築かれた所です。

記事では・・・、義満以降武家政権はさらに強化され、公家は弓馬・政・金を握る将軍の顔色を窺い、その命脈を繋いでいたことが見えてきます。貞成王も壮年期迄を<sup>きくてい</sup>菊亭今出川家（<sup>せいが</sup>清華家）で生活せざるを得ず、40歳にして伏見に戻り元服します。記主は伏見から、後小松上皇・<sup>しょうこう</sup>称光天皇親子、<sup>よしかず</sup>足利義持・<sup>くぼう</sup>義量・義教ら公方親子を注視し情報収集を行います。他方、日常では荘内の治政、祭祀等を通して地侍や荘民、芸能民のエピソードをも記事にしました。

そして<sup>しょうこう</sup>持明院統は「楽の家」としての誇りがあり、伏見殿でも近習（堂上家・地下家）とともに琵琶を中心に笛、箏、謡など芸（道）に練磨します。さらに連歌を詠み鬪茶をし、風呂や広間で大小宴会を毎日の様に繰り広げました。『<sup>かんもんにつき</sup>看聞日記』からは伏見殿を通して、中世の皇家や公家、幕府、地下侍・荘民・芸民の姿を現実に垣間見ることができる貴重な史料です。

何れにせよ貞成王は、北朝天皇の嫡子<sup>しんのうせんげ</sup>栄仁親王の血統である自ら御所の主になることを密かに願ひ、その前提親王宣下を賜うことを望みます。そうした中、北朝皇統のライバル後小松上皇系（<sup>ごこうごん</sup>崇光帝弟後光厳帝流）途絶危機を前に、貞成王は念願の親王宣下を授かります。その後、貞成親王自身は天皇に昇れなかったものの、<sup>ひこひと</sup>足利義教の計らいで長子彦仁王が<sup>ちてん</sup>治天後小松上皇の<sup>ゆうし</sup>猶子につきまします。そうして<sup>しょうこう</sup>称光天皇崩御後ただちに彦仁王は御所の主（102代後花園帝）に迎えられるました。崇光院流の宿願、内裏復帰を後花園天皇踐祚によって果たします。『<sup>かんもんにつき</sup>看聞日記』は伏見宮親王家にとって後世まで声が届くハッピーエンドのお話なのです。

伏見宮貞成親王 法号：道欽入道親王、院号：後崇光院 \*ウィキペディアより加筆編集 2017.3.6  
出生：旧暦応安5年3月5日（1372年4月9日）、死去：旧暦康正2年8月29日（1456年9月28日）  
祖父：崇光上皇、父：伏見宮栄仁親王、母：三条治子（大臣家・正親町三条家）、子：後花園天皇

読み易く<sup>ほんこく</sup>翻刻した日記を<sup>くんどく</sup>訓読し「続瓜の会」らしい訳をつけて考察します  
フィールドワークを定期開催、歴史的空間に繰り出し懇親会も行います

詳細は「<sup>しよくうり</sup>続瓜の会」共有メールをご確認下さい。

会共有メールで投稿された各課題・翻刻史料など情報をご覧戴けます。

質問・入会は下記共有メールお気軽にご連絡下さい

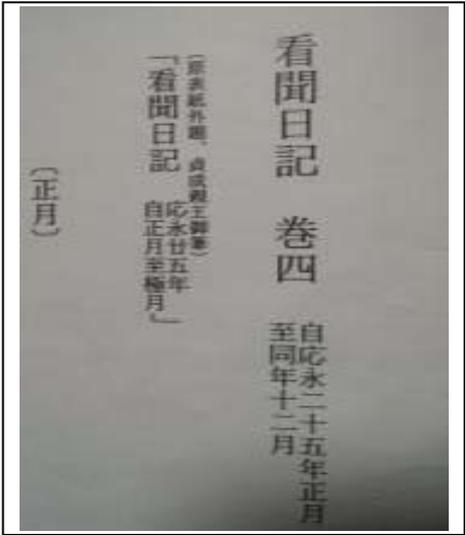
アドレス；[syokuuri@yahoo.co.jp](mailto:syokuuri@yahoo.co.jp)

しよくうり かい  
 在 学 生 ・ 卒 業 生  
**学 習 会 「続瓜の会」 の案内**

**史料を通して昔日を想う**

**< 会 員 募 集 要 項 >**

- ◇活動地域；瓜生山キャンパス（教室）・関西一円
- ◇対象；芸術学科（及び全コース・院生）
- ◇開催頻度；月に1回程度（原則月末 土 or 日・祝）
- ◇13：00～16：00 遅刻・中座・早退可能
- ◇会事務局連絡；結城 摂子（学習生）
- ◇会 代 表 者 ；中本 道則（卒業生）
- ◇会共有アドレス；[syokuuri@yahoo.co.jp](mailto:syokuuri@yahoo.co.jp)
- ◇会費；0円（但しテキストプリント代等実費）



**学習場景**



(訓読文)  
 十一日、晴、早旦御香宮・  
 山田宮・権現・妙見等ノ  
 参ル社ニ、年始早々参詣  
 ヤシロ  
 ス、帰リテ供スニ齒固ラ祝  
 ハガため  
 着如シレ例ノ、菊第二恒例ノ

フィールドワーク・懇親会（現在までに5回実施）

第1回  
'15

**< 続瓜の会結成：春 宇治・伏見フィールドワーク >**  
**『看聞日記』記主伏見宮貞成親王ゆかりの伏見と**  
**宇治を散策 (お上段)**

室町期の伏見殿跡はそのまま豊臣政権政庁・伏見城下に。  
 現在でも武家屋敷跡を町名でたどることができる  
 ・『阿弥陀経』の極楽浄土を具現化した平等院



**第3回 '16年春**  
**大山崎&石清水八幡宮**  
**フィールドワーク**

